



日本の有機農業の再生は、当町から始まっていますよ。

かねこ よしのり
金子美登が問う

有機農業再生のモデル事業を

Q 当町で「有機農業」が始まったのは、昭和46年。町政においても力を入れたおかげで、他町村に先駆けてその耕作面積や農業者の増加、地場産業との提携が進む等、農村再生のモデルとして、全国から注目されている。関連の最新データは。

A 環境農林課長 平成27年の農林業センサスによると、当町の販売農家数は299軒で、そのうち有機農家数が33軒あり、全体の11%です。

Q 平成29年度策定の「小川町元気な農業応援計画（おがわ型農業）」（通称

おがわん）の取り組みについて、手応え等は。また、ブランド化の進捗や、それに要した費用は。

A 環境農林課長 幅広い分野の農家の方々から意見を聞き作成したのですが、皆さんの「土づくり」等への思いをブランド化に込めました。また、「おがわん」認定者（41件）のうち、10件から土壌診断の申し込みがあり、微生物の多様性・活性値の分析を進めているところです。ブランド開発費としては、250万円程度を要しました。

Q 有機農業を下里地区以外の他地区に広げるための支援策は。

A 環境農林課長 土づくりの基本となる落ち葉等、当町の資源を利用した「堆肥施設の整備や講習」を考えています。



有機農業による「村おこし」を目指して。



衛生管理の知識は、非常時等にとつても役立ちます。

しまざき たかお
島崎隆夫が問う

町立施設での衛生管理の体制は

Q 今シーズン猛威を振るったインフルエンザ感染症であるが、町立の施設では感染を防ぐための対応は十分に行なわれたのか。また、職員は感染症対策を含めた衛生管理体制の知識を持ち、非常時に対応することはできるのか。

A 総務課長ほか まず、小中学校では2月16日現在で、延べ26学級が閉鎖されました。なお、各校は実態に合わせて子供と保護者へ指導及び注意喚起をしました。次に、町施設の調査では2月末時点で14人の職員が感染し、療養のために休暇を

取得しました。これは、例年に比べると多い状況であったといえます。非常時の対応については、今後、各施設ともに構築する必要があると考えています。

小川町の農業・林業

Q 町が進める「小川町元気な農業応援計画」いわゆるオガワンプロジェクト。県が進める「里山平地林再生計画」。国、県、町が進める「多面的機能支払い交付金事業」。町での取り組みの現状は。

A 環境農林課長 オガワンは、現在合計で41件の認証登録があります。PR誌の発行やさまざまな機会を使い、発信をし応援していきます。また、多面的機能組合同士の情報共有も進めたり、里山平地林再生計画も積極的に進めていきます。



農林業に関する施策の活用で、町の魅力UP！住民も自然と元気になる！？



負けるな人口減少に！

やまぐち つねひこ
山口勝士が問う

人口減少に負けない取り組みを

Q 当町の人口減少の状況から見える課題にどう取り組んでいくのか。

A 政策推進課長 ここ数年は町の人口ビジョンにおける見込みを上回る人口状態で進んでいます。65歳以上の老年人口が増加傾向であるのに対し、0歳から14歳の年少人口及び15歳から64歳の生産年齢人口は急激な減少傾向にあります。このような状況が続くことにより、人口構成は逆ピラミッド型となります。子育て世代に代表される若い世代を積極的に町に呼び込むとともに、転出抑制や定住促進などをお

し、いかに社会減を改善するかが最大の課題になると考えています。

町活性化への観光の取り組みは

Q 東京オリンピック・パラリンピック、川越秩父プラチナルート、インバウンド対策等々、都心から近い地の利を生かしたさまざま体験や、観光地としての展開は。

A にぎわい創出課長 ラグビーワールドカップ対策をはじめ、寄居町・東秩父村との観光連携による東京オリンピック・パラリンピックへの取り組みを展開していきたいと考えます。埼玉では両大会とも会場があり、そうした会場で県とも連携してPRを行ない、当町を知って訪れてもらえるよう、魅力の発信に努めていきます。



子育てを支えるまちづくりの新拠点「ココット」子育て総合センターがオープン。

カラオケ。現在、東松山や川越まで行っています。



(K・Tさん・10代)

誰でも利用できるスポーツ専用の体育館。



(U・Kさん・43歳)

歩行者天国。休日にゆっくり駅前を歩きたい。



(T・Sさん・10代)

Mini Column

オガワマチのことギカイのこと一緒に見よう、考えよう
「小川町に必要なもの」